

開講科目名 / Course	応用看護援助技術演習	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期 / Second	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	4	
主担当教員 / Main Instructor	石丸 智子	
担当教員名 / Instructor	石丸 智子、徳丸 由布子、篠原 彩、内倉 佑介、堤 恒貴、大矢 七瀬、井上 陽士、外池 桃子、高木 優衣、堀 裕子	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	演習	
授業回数	15	
科目の目的と概要	看護基礎教育の総仕上げとして、学んだ知識、技術を有機的に統合し、根拠に基づくアセスメント能力および適切かつ安全・安楽な看護技術を提供できる実践能力を養う。学生が看護技術に関する自らの課題に主体的に取り組み、自己研鑽しながら看護技術の定着と向上を図ることを目的としている。	
到達目標	1. 臨床現場において遭遇しやすい事例を通して、根拠に基づいたアセスメントができる。 2. 課題事例のニーズや状況に合わせて必要な看護技術を判断できる 3. 課題事例について、適切かつ安全・安楽な看護技術が提供できる。	
DPとの対応	2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、6.探究心と創造力	
授業計画	授業は原則2コマ続きで実施する 01. オリエンテーション、個人課題事例の決定、活動計画立案 02-03. 共通課題について事例の看護過程の展開を検討する 04-05. グループワークおよび実技練習を行う 06-07. 看護技術を展開している場面を録画記録する 08-09. 記録した動画を担当教員に提出し指導を受ける 10-11. 個人課題について事例の看護過程の展開を検討する 12-13. 実技練習を行い、看護展開している場面を録画記録する 14-15. 記録した動画を担当教員に提出し指導を受ける * 詳細は別途資料を配布する	
その他の授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生個人の課題に基づいて、事例課題を選択し、取り組むことができる。 ・ 学生個人で技術展開到達度を設定できる。 ・ 学生個人の計画に合わせて授業時間を活用できる。 ・ 学生の希望に応じて技術展開について教員から指導を受けることができる。 ・ 出席確認はwebを利用する。 ・ 課題事例に関する看護技術展開中の映像を各自録画記録する。これにより、技術展開の向上の程度や課題の発見など自己評価を客観的に行うことができる。 	
時間外学修	<p>事前学修：看護技術に関するe-ラーニング（Nursing Skills）及び課題事例について予習する（6h）。</p> <p>事後学修：課題事例については、シミュレータ（SCENARIO）や各自撮影録画した資料等を用いて、復習する（6h）。</p> <p>* 課題事例の実施期間は、基礎・成老年実習室を開放する。但し、土曜・日曜は原則として使用できない。</p>	
評価方法と評価割合	評価は課題提出（課題提出状況、記載内容の評価）80%、演習態度（ワークノートの提出状況および記載内容、グループワークへの参加度を含む）20%で行う。 遅刻、欠席は減点対象とする。20分以内の遅れは遅刻とし、超える場合は欠席として取り扱う。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。期限までに課題提出がない場合には単位認定不可とする。	
テキスト	指定なし	
参考書	指定なし	
履修する上で必要な要件		
その他	オリエンテーションで資料を配付して詳細な説明を行う。	
教員の實務経験	有・無	有

	内容	石丸智子：病院の看護師 徳丸由布子：病院の助産師 高木優衣：保健師 その他、看護系教員8名程度が指導担当：全員が看護師経験を有する。
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	豊かな看護実践力を活かして、看護技術の原理や科学性の理解を促進させる。対象に対して安全で安楽な技術の展開を考える示唆を与えながら支援する。	